

むつごろう通信

18号

2010年

10月1日発行

着任のご挨拶



沿岸域社会計画学
桑江朝比呂客員教授

2010年4月より客員教授を拝命いたしました。私は現在、港湾空港技術研究所という土木系の独法研究所に勤務しております。大学生の時は農学部の経済学科に所属し、卒論では肉牛を肥育する農家の損益を分析しました。大学院生の時は水産学の研究室に所属し、大阪湾をフィールドとして植物プランクトンの現存量と水質との関係について研究しました。大学院修了後すぐに現在の職場に就職しましたので、経歴的にはかなり風変わりです。

就職後は干潟生態系やその再生に関する研究を続けております。例えば、造成された干潟において生態系がどのように発達していくのか、大型の干潟実験水槽（メソコスム）や現地の造成干潟で調べたり、干潟に飛来するシギ・チドリ類が何を食べているか調べたりしております（図1）。また、干潟における物質循環にも興味を持っており、酸素・炭素・窒素といった生元素のフラックスについて研究経験があります。最近では、海洋生物が固定する炭素（ブルーカーボン）に特に注目しております（図2）。沿岸生態系が果たしてどの程度CO₂を吸収し、気候変動に寄与しているのかについて明らかにしたいと思っております。

日本を代表する泥干潟を有する有明海や八

代海を研究・教育拠点とする機会をこの度与えていただき、非常にうれしく思っております（ただ実は、これまで泥干潟での調査経験がほとんどなく、あの柔らかすぎる干潟の上でまともにサンプリングができるのか正直不安です）。有明海や八代海の豊かな生態系を保全・再生するためには、どのようなことが重要なのか？といった課題に対して、沿岸域環境科学教育研究センターの皆様とともに取り組んでいきたいと思っております。常識を覆すような驚きのあるテーマや、challengingなテーマが好きです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



図1 干潟で餌を食べるシギ（トウネン）

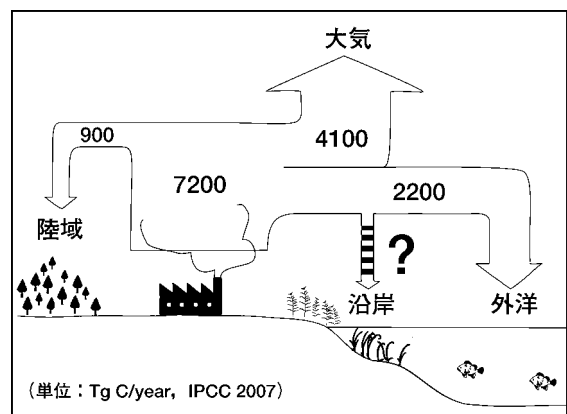


図2 沿岸生態系は炭素をどのくらい固定しているのか？